

**京都市はぐくみ推進協議会
令和元年第1回「ひとり親家庭支援部会」 摘録**

日時 令和元年6月27日（木） 15：00～16：00

場所 京都ガーデンパレス 2階 桜

出席者 指宿達也委員, 埋橋孝文委員, 草野政子委員, 芹澤出委員, (4名)

欠席者 小林正委員, 西恵味委員 (2名)

次第

1 司会者の挨拶

2 議題

(1) 「子ども・若者に係る総合的な計画（仮称）」の策定について

(2) 「子ども・若者に係る総合的な計画（仮称）」策定に係る「ひとり親家庭支援」の今後の方向性について

(司会：野村 子ども若者はぐくみ局子ども家庭支援貧困対策の子ども対策係長)

司会	<p>令和元年度 第1回『ひとり親家庭支援部会』を開催する。</p> <p>本日の会議については、市民に議論の内容を広くお知りいただくため、公開することとしている。あらかじめ御了承いただきたい。</p>
司会	<p>委員の一覧については、資料1に記載しているので、確認いただきたい。</p> <p>「京都市はぐくみ推進審議会条例施行規則」第6条第3項において、当部会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができないこととしているが、今日は、過半数以上の委員の皆様にご出席をいただいているため、会議が成立していることを御報告申し上げます。</p> <p>ここからの議事進行については、埋橋部会長にお願いする。</p>
埋橋部会長	<p>それでは、議事に入る。</p> <p>次第の『子ども・若者に係る総合的な計画（仮称）』の策定』について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>資料3『子ども・若者に係る総合的な計画（仮称）』の策定について』を用いて説明</p>
埋橋部会長	<p>ただ今の事務局からの説明について、意見、質問はあるか。</p>
埋橋部会長	<p>別紙2について、「レジリエンスのある社会を実現」とあるが、レジリエンスは本来へこんで戻る、弾力性があるという意味である。問題が起きてから出発するというニュアンスがあり、健全という意味ではない。市民から反応はないのか。</p>
事務局	<p>元に戻るだけでなく、回復してさらに良いものにしていく意味も含んでいると認識している。災害対策で使われることが多い言葉であるが、都市経営のあり方も含んでおり、子ども、若者への支援にも活かすよう掲げている。</p> <p>また、レジリエンスという言葉は市民の中ではまだ浸透していない。誰一人取り残さないことを目標としたSDGsのことも併せ、本市として様々な場面で市民に説明し、なじみのある言葉となるよう理解を深めていきたいと考えている。</p>

芹澤委員	別紙1について、第V部「市町村子ども・子育て支援事業計画」とあり、国が定めて作成するものであるとは理解しているが、京都市の計画であるにも関わらず市町村と表現するのか。
事務局	国の方針に従って作成しているが、現時点では位置付けとして記載しており、表現は今後精査していく。
指宿委員	新計画の対象の中で0歳から30歳未満と範囲が広い、施策によっては40歳未満までのポスト青年期の者も対象とは何か。
事務局	若者サポートステーションの取組をはじめ、居場所づくりの取組など、30歳以上も対象となる事業は多い。様々な青少年・若者に対する施策が適用されるという理解である。
芹澤委員	対象に妊婦は入らないのか。
事務局	支援としては、妊産期からの支援も実施している。 資料3では言葉の定義がメインになっているため記載していない。
芹澤委員	新計画は子どもや若者に対する総合的な支援になることを考えると、子ども、若者の定義をこれにすると、妊婦が漏れてしまう。特定妊婦をはじめ、支援の必要な妊婦が多い現状を踏まえ、言葉の定義に入れるべきではないか。
事務局	今後検討する。 コンセプトにもしっかりと位置づけているので、漏れているわけではないと理解していただきたい。
事務局	それでは次に、次第の『「子ども・若者に係る総合的な計画（仮称）」策定に係る『ひとり親家庭支援』の今後の方向性』について、事務局から説明をお願いします。 資料4「ひとり親家庭支援（各論）」を用いて説明
委員	ただ今の事務局からの説明について、意見、質問はあるか。

<p>芹澤委員</p>	<p>前回の部会でも話に出ていたが、ゆめあすのみで京都市全体のひとり親家庭支援を網羅することは無理ではないか。ひとり親家庭は周りに知られたくない思いが強いことが多く、支援が必要でも隠れて見えにくい。高齢者や障害者は地域で把握出来ており、比較的支援が行き届いているが、ひとり親家庭も地域の身近なところで気軽に相談し、支援できるようなものを作っていないといけない。国においても、今年度からNPO等を活用した訪問相談や同行支援について予算拡充しており、ひとり親家庭施策の充実を図っている。こうした予算を取り込み、これまでからもう一步踏み込んだ支援を実施していく必要がある。</p>
<p>埋橋委員</p>	<p>ひとり親家庭には、施策が対象者に届いているかという問題が特にある。1箇所が良いのかも含め、京都市全体に支援が行き届くように工夫が必要である。</p>
<p>芹澤委員</p>	<p>京都市のニーズ調査の京都市の実感（問50）においても、「保護者の用事の時に必要な支援を受けられる環境である」、「子育てしながら仕事と生活は両立できる環境である」、「子育てに不安を感じた時気軽に相談できるところがある」、「身近に自宅以外の子どもの居場所や遊び場がある」について、「あまりそう思わない」「そう思わない」が多い。「家族・親戚以外で子どもを見てもらう人がほかにいますか」（問44）も特になさが多い。地域で孤立をしていて支援を受けられる人がいないという状況の中で、もっと身近に相談にのってくれるところが必要ではないか。</p>
<p>埋橋部会長</p>	<p>ゆめあすの周知度が低いということも調査結果として出ている。近くでアクセスできるような仕組みとともに、施策をどのように届けるか考えていく必要がある。</p>
<p>草野委員</p>	<p>ゆめあすに関しては周知不足の一面もある。1か所で足りていないということもあるかもしれない。</p>
<p>埋橋部会長</p>	<p>ニーズ調査においても、世間の偏見が多いという結果もあったことを踏まえると、ひとり親家庭の相談先と周知すると行きづらいが、情報も届けたいという行政とどうすればうまくいくか考える必要がある。差別につながる形で情報を届けるにはどのような方法があるのか。</p>

<p>芹澤委員</p>	<p>一つの方法は母子生活支援施設や児童養護施設等で、表向きに出にくい形でそういった機能があると良い。ひとり親家庭のほとんどが就労しており、平日は仕事をしている現状で、その時間帯以外での相談ができないと全然つながらず、意味がない。夜間や土日を含めて相談できる体制が必要である。虐待も夜間に起きることが多い。虐待通告ではなく、しんどい時に相談できるような窓口とか、電話対応してくれる場所が身近にあればよい。そこから支援につなげることができる。</p>
<p>事務局</p>	<p>ゆめあすについては、5年前の調査と比較すると認知度が伸びてきており、そのまま伸ばしていきたい。また、各区役所、支所に子どもはぐくみ室を設置し、子どもに関する施策相談も含めて支援している。まだまだ不十分なところもあるが、その機能を強めていくというの必要である。ひとり親家庭のほとんどが働いている中でどのように支援を届けていくかは大きな課題であり、SNSを活用するなど情報提供の仕組みが必要となる。</p>
<p>芹澤委員</p>	<p>野菊荘では、子どもはぐくみ室から相談されることもあるが、子どもはぐくみ室では出来ることが少ない。例えば、野菊荘では訪問や、子どもの預かり、食材提供、学習支援等を提供することができるが、子どもはぐくみ室では相談されても活用できるサービス、施策がなく支援につながらない。児童家庭支援センターは、母子生活支援施設や児童養護施設、乳児院に設置し、施設の中にある機能の活用や、24時間の支援など、行政機関と違うことができる。総合的な支援が可能な施設は、そういった本来持つ機能を活用して地域で支援できる強みがある。京都市は、面的に網羅できているものの、直接提供できる支援サービスが少ないため、ひとり親家庭からすれば相談しても仕方ないという形になってしまう。本当にしんどい時に来てもらえるとか、子どもを見てもらえるとか、そういった支援が必要と思う。</p>
<p>埋橋部会長</p>	<p>母子生活支援施設に行政からつなぐことは出来るのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>これまでから、支援機関や施設に相談してつなぐことをはじめ、ショートステイなどの母子生活支援施設でも取り組んでいただいている施策を紹介するなどのつなぎは行ってきた。こうした連携は今後も重要であり、ひとり親家庭の支援に限らず、貧困対策全般に言えることであるが、地域や関係機関、企業で、こういった支援が必要という認識を深</p>

	<p>め、共有し、各々が支援できるようにしていくことで、社会資源を最大限活用できる。京都市と京都市社会福祉協議会と三者協定を締結いただいたセブンイレブンからの寄付や、フードバンクの取組をはじめ、寄付を中心とした民間からの支援が近年増えている。そこをしっかりとつないでいくことも含め、どういったことから施策として実行していくべきかを十分検討しなくてはならない。</p>
埋橋部会長	<p>共同生産が今注目されている。それぞれの分野が協力し合いながら、行政が窓口となって紹介や情報提供することができれば良いが、問題が起きたときに責任をとれるのかもよく検討したほうがよい。</p>
指宿委員	<p>ニーズ調査結果でもあるとおり、ひとり親家庭は非正規が多く、収入面での不安も多い。資料4でも生活の基盤を支える就労支援を掲げているが、就労支援は重要な施策だと思う、色々な関係機関と連携して推進していくことが必要だが、継続して働くことが難しい。子育てに対して理解は深まっているがまだまだ足りないところが多くある。そこを支援していくことがとても重要な問題なのでお願いしたい。</p>
埋橋部会長	<p>日本のひとり親家庭は、世界的に見ても就労率が高いが非正規やダブルワークも多く、忙しい。地域の取組にも参加するなら少しでも家事をしたいと思う現状の中で孤立している。そういったことを踏まえると、支援につなぐきっかけが難しい。なんとかそこに情報を届けるといのが重要であり、就業、生活に関するあらゆる支援を届けるための試みを考えていただきたい。</p>
事務局	<p>ゆめあすで取り組んでいる就業に係る講習会やセミナーを実施するのみではなく、ハローワークとの情報連携も進んできている、毎日とまではいかないが、各区役所、支所にハローワークがあり、その強みも生かしつつ相談や情報提供をさらに進めていきたい。</p>
草野委員	<p>ゆめあすの2階にハローワークがあるので直接相談もできる。</p>
芹澤委員	<p>母子家庭の特徴として、自尊心や自己肯定感が低い傾向がある。だから、仕事に向かっていくことや、新しくチャレンジするパワーが少ない人が多い。就労と言いながらとても多くの問題を抱えている。実際、生活全般で自尊心、自己肯定感が高まるような支援をすると就労につな</p>

	<p>がることもあるのは、根本にそれがあるからである。また、子どもに対しても、自信を持って行動できるとか目標に向かって努力できると言えないのも、親の自尊心、自己肯定感が低いことの現れである。</p> <p>自己肯定感が低いと他のいろんな試みとか取組が効果を出せないし、高ければ高いほど良いわけではないが、ある程度なければ意味がない。どう作っていくかは学校や地域、福祉の支援が必要である。</p>
芹澤委員	<p>SNSなどの身近なツールを使って気軽に登録できて情報が必要ではないか。今は母子寡婦福祉連合会に入らないと情報を得る機会が少ない。</p>
事務局	<p>ゆめあすの事業は、母子寡婦福祉連合会に入会しなくても利用可能で、親子で参加できるファミリーネットワーク事業のレクレーションや、母子家庭の方同士が気軽にしゃべれるママカフェ等を行っており、交流できる機会をつくっている。これらの京都市事業に加え、母子寡婦福祉連合会としても交流事業や学習事業を実施していただいている。</p>
埋橋部会長	<p>地域でも活用できるようになってほしい。</p>
事務局	<p>ゆめあすの交流事業は、ひとり親家庭の方だけが参加できる強みがある。今後とも充実させていきたい。</p>
芹澤委員	<p>既に取り組まれているセブンイレブンからの寄付や、フードバンク事業でも、メールで配信して取りに来てもらうとか、地域でも発展させていける。何かあったら来てもらえる、すぐ行ける、子どもに行っておいでと言えるようなものが出来たら良い。</p>
埋橋部会長	<p>今回のニーズ調査結果でも、特別視されたくない、差別的に見られたくないとか、そういった回答がある一方で、一般的な地域の母と子のふれあいだけでなく、ひとり親家庭のお母さんだけで話交流する場が必要とも言える。</p>
芹澤委員	<p>離婚や養育費の問題、面会交流とか専門家の窓口があるが、知っている行きにくい。身近な人が相談に乗ることや、一緒に行こうとかでつながっていけるし、対応できる。そこを丁寧にしないと、窓口だけあってもつながらない。</p>

草野委員	ゆめあすでも相談事業を実施しているが、なかなか認知されていない。利用する方も同じ方が多い。ママカフェは毎回10人くらいの参加で、離婚してすぐの方、幼児の母親の方が多。
芹澤委員	時間がないからこそ、その人がしんどい時にピンポイントで対応する必要があり、なかなか支援につながらない。
芹澤委員	今後、給付型奨学金の制度が変わるが、周知をしっかりとしていきたい。ただし、チラシを配るだけでは子どもが書けないので、一緒に書いてあげるような寄り添いがないと申請につながらない。可能な限りのサポートをお願いしたい。
埋橋部会長	こうした支援はひとり親家庭支援の中のどこに当たるのか。
事務局	教育支援にあたりと考えている。
芹澤委員	京都市ひとり親家庭応援パンフレットはとても良いと思っており、一冊持っていたら全部わかる。このパンフレットの中にも奨学金のことか、公的なこと以外も周知できないか。メールでも配信したら良い。少なくとも奨学金制度は認知されていない。
事務局	パンフレットに関しては、基本的に京都市の施策を掲載しているからと認識している。御指摘に関しては教育支援ではあるものの、情報発信にリンクしてくる。重要でないから掲載していないのではなく、位置付けの問題である。
埋橋部会長	京都市の施策に限らず、色々な情報を出していくことも必要である。
事務局	計画への掲載という意味では精査が必要だが、重要な視点だと思う。
芹澤委員	パンフレットに掲載しても申請のタイミングがあり、それを丁寧に伝えていかないと結局申請を漏らすこととなる。京都市がやっているひとり親家庭を対象とした学習支援は、学生ボランティアが丁寧に対応してくれているが、学生ではこうした案内やサポートをやりきることが難しいだろう。京都市ユースサービス協会の職員は学習会に参加されているのか。

事務局	学生ボランティア以外にも、京都市ユースサービス協会の職員やコーディネーターを配置し、必要に応じて相談に乗りながらサポートを行っている。
芹澤委員	職員やコーディネーターは毎回来るわけではないし、今の体制ではおそらく毎回来るのは難しいだろう。その場で保護者の相談やサポート、食材提供等の支援ができるとうい。保護者と子どもセットでサポートしたい。
事務局	そうした情報も求めて学習支援に来られている家庭もあると思うので、周知の良い機会になる。何ができるか検討していく。
芹澤委員	包括的に様々な支援と組み合わせてやっていってほしい。保護者ともつながる、子どもと一緒にってというのが必要である。ただし、証明書などの書類集めに保護者の協力も必要である。
埋橋部会長	どの施策もメニューをそろえるだけでなく、どう届けるかという伝達について点検することが必要である。特にひとり親家庭には重要なことである。
埋橋部会長	それでは、本日の議事については、以上となる。 事務局に進行をお返すする。
司会	以上をもって、令和元年度第1回「ひとり親家庭支援部会」を終了する。